

私が演じさせていただけました、主人公の妹「よしえ」の最初のセリフは「お姉ちゃん、遅れちゃうよ。」です。その後彼女はいつもどおり家を出て、父と姉と職場へ向かうのです。「アオギリにたくして」という映画は、戦争の悲惨さを伝えるためだけの映画ではありません。いつもどおりの食事、あたりまえの家族のやりとり、些細だけど嬉しいことや、毎日使う靴。そういった、日常と家族の物語でもあると私は思っています。映画のもう一人の主人公であるアオギリの木も、いつもどおりの場所で風に吹かれています。私は実際、広島でアオギリに会ってきました。力強いただけでなく、あたたかく包みこむような母性を感じました。そんなアオギリが、私の生まれ育った阿南市に植樹されることは、私達映画関係者が全員で力を注いで生み出した命が広がっていくようで本当に嬉しく思います。このようなご時世ですので、皆様にお会いし、直接お礼を申し上げることは叶いませんが、本当に本当にありがとうございます。

アオギリの木が元気に育ち、見にいらした方々にも元気を与えてくれる存在になることを心から祈っております。